



広報委員が聞く！

町民インタビュー



「農地を貸しても農地に住みたい」

なかた そういち 中田 荘一さん、きよみ きよみ 喜代美さん（2区）



90才になっての心境は？（荘一さん）

26才で結婚し、東鷹栖の親から分家を言い渡され比布の今の農地に移住して来た。凶作の時もあったし馬耕作から機械で耕作へと変わり借金もした。減反政策を機に昭和45年に荘一さんは水道設備会社へ、昭和56年に喜代美さんは建設会社へ勤務しながら農家を続けて来た。今は農地を貸しても農地に住みたい。夫婦二人で畑1反の自家菜園を作りながら「お互いの出来ないことを補い合ってきたから今が一番幸せだな」と思っている。

議会に期待することは？（喜代美さん）

三平サロンや2区憩いの会などは送迎をしてくれるので出掛けられており、認知症予防にもなっています。

以前からぴっぷクリニックに通院していましたが、送迎が無くなったため、公共交通政策の充実を提案して欲しいと思います。

（インタビュー：遠藤ハル子 えんどう はるこ）

「花に助けられて元気でいられます」

ながおか しづこ 長岡 志津子さん（中町）



園芸をしていて楽しいと感じることは？

花を買ってくるのではなく、種から植えて育てることが楽しいです。小さなハウスで昨年からスイカを植えてみたりと色々挑戦しています。

日々の生活にどのような変化がありますか？

膝や足が痛くても室内にこもらず、花に水をあげようと外に出るので、太陽にあたり元気でいられます。花に助けられていますね。

議会に期待することは？

人数も少なくなり、何をやるにも大変だと思えますが、地区の方との憩談会を開催されていたり、これからも良い方向に変わってほしいです。

議会だよりも読んでいます。

（インタビュー：谷口雅浩 たにくちまさひろ）

編集後記



この広報は、発展途上にあるものの究極は、印刷物ではなくインターネットでの配信であると考えています。

そして、YouTubeでの配信に注釈などを付けて、会議で何が発言されたのか、どのように施策が決められたのかをすべて公開し、その案内役として、適切な「目次」を作る事にあるのでは無いかと考えています。

しかしながら、インターネット環境が未整備の場所もあるため、そこへの補てんをどうするかという問題も同時に考えなくてはなりません。

また、AI（エーアイ）で文書をまとめることが普通になりつつある現代において、人がまとめる効率の悪さと先入観・感情移入による表現の自由をどの程度、許容して頂くかも課題です。

しかし、それでも比布町の運営は滞りなく進んでいるのです。あなかしこ、あなかしこ

（植西 浩一） うゑにし こういち



議会広報特別委員会

委員長 植西 浩一
副委員長 佐藤 良彦
委員 遠藤ハル子
大熊 勝幸
谷口 雅浩